

厚木市地域福祉計画（第6期）（案）に対する
パブリックコメントの実施結果（案）について

1 意見募集期間

令和5年11月27日（月曜日）から令和5年12月27日（水曜日）まで

2 意見の件数等

- (1) 意見をいただいた人数 1人
 (2) 意見の件数 1件
 (3) 案に反映した意見の数 0件

3 意見と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方	反映したもの
2 第4章 施策の方向5「福祉に対する理解の促進」			
1	<p>地域包括ケアについて理解の浸透が薄いのではないかと。ほとんどの人は、自身や周りの状況で初めて知ることになると思う。</p> <p>福祉教育などを通じて浸透を図ることが必要ではないかと。</p>	<p>地域包括ケアについて理解の浸透を図ることは重要であると理解しており、本計画において、福祉教育などを通して理解を広めること、深めることを進めていく計画としています。</p> <p>【計画案P64「5 福祉に対する理解の促進」内取組】</p>	

4 お問合せ先

- (1) 担当課名 福祉総務課
 (2) 連絡先 046-225-2200

5 結果公開日

令和〇年〇月〇日 公開

第4章

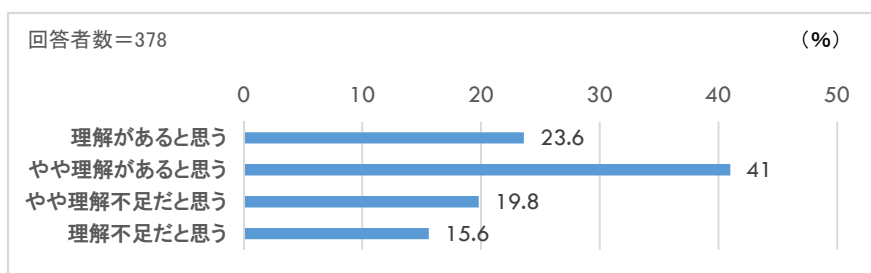
基本目標 2 互いに認め合い、一人一人が尊重され、
地域で安心して暮らせるまち

施策の方向 5 福祉に対する理解の促進

現状と課題

- 高齢者も障がい者も、地域で自分らしい暮らしを続けることができる社会を実現するため、地域住民一人一人が老いることや障がいがあることへの理解を深めることが重要です。
- 障害福祉サービス利用実態調査では、地域の障がい者に対する理解について、「理解があると思う」又は「やや理解があると思う」と回答した障がい者の割合が、64.6%と令和元（2019）年度の前回調査から 13.7%上昇しています。

■ 地域の方は障がい者に対する理解があると思いますか。



障害福祉サービス利用実態調査

取組方針

- 老いること、障がいがあること等を理由とする差別の解消について、地域住民の関心と理解を深めるため、様々な機会に啓発を行います。
- お互いを理解し、助け合いの心を育むために、幼少期から全ての年代が交流する機会を設けます。
- ヤングケアラー、8050 問題などに対する理解を促進します。

達成された姿

福祉の啓発や学習の機会が充実し、お互いに理解し、尊重し合える関係ができている。

自分や相手を受け入れ、誤解や偏見のない、お互いを認め合う関係づくりを通じて、誰もがお互いを尊重し、支え合う社会が実現しています。

主な取組

1 理解を広めるための普及活動の実施

- 認知症の症状とその対処法・支援体制などの情報をまとめた「認知症ケアパス」などの配布
- 障がいを理解するためのガイドブックの配布、障がい者が困ったときに、周囲に理解や支援を求めるために提示する「ヘルプカード」の配布
- 認知症についての市民普及交流イベント（オレンジフェスタ）の実施
- 心のバリアフリーの理解の促進
- 看（み）取りに対する理解を広めるための講演会などの開催
- 児童・生徒や若い世代を対象にした福祉教育の実施

2 理解を深めるための啓発活動の実施

- 車椅子や加齢に伴う身体機能の低下を体験することができる福祉体験教室の実施
- 認知症サポーター、子育てアドバイザー、心のバリアフリー推進員の養成
- ヤングケアラー、8050問題などの早期発見、支援に向けた研修会などの実施
- 認知症サポーターが地域で活躍できる仕組み（チームオレンジ）づくり
- 高齢者保健福祉施設や障がい者支援施設などでの地域交流事業の実施
- 地域における世代間交流事業の実施
- オレンジサポート企業団体認証制度の推進

主な指標

指標	年度	R元 (2019) 年度	R4 (2022) 年度	目標値		
				R6 (2024) 年度	R7 (2025) 年度	R8 (2026) 年度
ヤングケアラー、8050 問題研修会開催数		—	1回	2回	2回	2回
認知症サポーター受講者 数（累計）		15,404人	18,025人	19,300人	20,100人	20,900人
心のバリアフリー啓発回 数		—	1回	5回	7回	10回